

9 道徳教育

(1) 研究主題

対話を通して、自己を見つめ、よりよく生きようとする思いをはぐくむ道徳教育の充実

(2) 主題について

近年、核家族化の進展、地域のつながりの希薄化、共働き家族の増加など子どもの育ちをめぐる環境は大きく変化し、価値観は多様化している。このような現代社会に生きる子どもたちは、自分を捉え表現することが難しくなっている。また、児童数の多い本校においては、人に紛れ、自ら「判断する」という行為を他者に委ねることが多い傾向にある。そのため、自分の判断に自信がもてず「自ら判断して実行する」ことに対して消極的である。さらに、体験活動においても、一人一人にとっての貴重な体験であるという認識が乏しく、自分の体験と道徳的価値を教材と結び付けることが難しい場合が多い。こうした現状をふまえ、様々な状況や立場を考えながら人との関わりの中で自ら判断すること、判断を支える道徳的価値の根拠として自分の体験を捉え直すことが、全教育活動で行われる道徳教育として必要である。自分にとっての貴重な体験を道徳的価値から捉え直すことは「今はできていない自分だけでも、いつかはできるようになりたい。」という気持ちにつながっていくと考える。また、自らのもつ弱さを克服することに結び付くと考える。それは本校の「きっとできる！ えがおのために！」というスローガンを達成する基盤としての道徳性を育てることになると考える。

(3) 特別の教科「道徳」の指導

～児童が、ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、対話を重ねながら、自己の生き方について考えを深める道徳科を目指す～

○問題を自分のこととして捉えることで、道徳的価値への理解を深めたり、そのよさや難しさなどについて確かめたりすることができるようにする。これにより、自己の生き方について思いをはせ、よりよく生きるための見通しをもたせることができる。

○自分自身を見つめ直し、自己の生き方について考えを深めていく「自己との対話」と、多様な考え方や感じ方に触れ、他者を理解し他者と共によりよく生きようとする思いをはぐくむ「他者との対話」を重ねていくことで、自己の生き方についての考えをより深め広げていくことができるようにする。

(4) 研究計画と具体的施策

①全体計画・年間指導計画の見直しをする。

②道徳科における指導を工夫する。

- ・自分との関わりにおいて道徳的価値を考えることができる工夫をする。
- ・自他の考え方や感じ方を交流する場を充実させる。
- ・自分の思いの変化、または深化されたことが自覚できる振り返りを工夫する。

③道徳科において成果が期待される補助資料を収集・整理・充実させる。

- ・学年の道徳部員を中心に、情報交換を活発にする。
- ・学年部で掲示資料を作成し、共有化する。

④体験に根ざした道徳的価値の高まりを表現する場を設ける。

⑤全教育活動において指導する。

- ・各教科、特別活動、体験的な学習、総合的な学習の時間、ふるさと教育、キャリア教育など

⑥学びを選択できるように、1人1台端末を活用する。

(5) 評価

○道徳的価値を自分との関わりで捉えることができていたか。

○様々な考えに触れ、これからの生き方について考えを深めることができていたか。

○道徳教育の重点を共通理解し、児童に感得させる環境であったか。